

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
 「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

事業所名 夢門塾ゆうゆう笠岡2組

公表日

2026年 1月

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・行事・活動時間に応じて活動の部屋を分け使用している。	自由ルームの音が学習ルームに届くため、環境面の工夫を検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	・個別に対応が必要な子へ担当を振り分ける等している。	友達と遊ぶことや一人で遊ぶことが苦手な子どもへの支援を、より充実させていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2		ニーズに応じて環境整備を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	・朝夕に掃除を行っている。 ・子どもとも掃除をする時間を設け、おやつの後には片付けとして自分で机を拭くようにもしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	落ち着くための場所として事務所や相談室、ストレス発散のための場所として運動ルームを活用している。	玄関やトイレなど、他の子どもや職員が使用したい場所に入ったまま出てこない、鍵をかけてしまうことがあるため、状況に応じた配慮や対応が必要である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	・職員全員で改善が必要な点を話し取り組むようにしている。	計画および改善の観点において、サイクルを継続的に回していくことが課題である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・ご意見をいただいたことには最優先で議論をし、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・毎朝のミーティング時に意見交換を行う等、管理者へ意見をつなぐ環境を整えている。	改善案が実行に結びつくまでに時間がかかっているため、目標を適切に設定し、職員全員で取り組める内容となるよう意識していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	・毎年アンケートを行っている。 ・他事業所の職員が来所し評価してもらうラウンド業務を行い、業務改善に活かしている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	・毎月様々な研修を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	・子どもたちが自分ができるようになるような楽しい活動を考えている。 ・個々のニーズに合うように取り組みを変えたり新しいことに挑戦するようにしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	・モニタリングで保護者の方からお話をしっかり聞き、スモールステップの計画書を作成できるよう心掛けている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	・児童発達支援管理責任者主導で子どもの様子や目標の達成度の確認を職員間で行い、目標の優先順位や達成までの道筋に共通認識を持った上で計画作成を行っている。	話し合いの場の設定をモニタリングに合わせ、より迅速に行っていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	・計画書に各自目を通すだけでなく、気を付ける点の共有を行っている。	全員が同じ支援や声掛けができるよう、協力して取り組む。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	・子どもの活動の観察内容は日々特記事項として記録を取り、毎朝のミーティング時に職員間で共有している。	フォーマルなアセスメントの導入が課題である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		地域支援・地域連携をどのように取り入れていくかが課題である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・職員全員で案を出し合い企画している。	立案が個々に委ねられることが多いため、共有・検討する体制づくりが課題である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・プログラムに飽きが出ないように新しい企画を取り入れている。 ・子どもたちからやってみようという聞き取りをしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・集団が苦手な子もいるので、1対1の対応をとる、職員と一緒に集団活動に参加する等、臨機応変に支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	・毎朝ミーティングを行い、その日の活動内容やルール確認をして支援にあたっている。	チームで取り組んでいることを意識し、より良い支援や声掛けができるよう話し合っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・気になる事があれば管理者に報告を行っている全員での反省事項の共有は翌朝のミーティングに行っている。	それぞれの意見を共有し、チームとして振り返りが行えるようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・毎日必ず記録を取っており翌朝のミーティングで共有を行っている。 ・どのような支援を行えばより良かったかの記録もしている。	記録内容が十分に共有できていないため、共有方法の見直しが必要である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・半年ごとにモニタリングを行い、適切な見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	・運動だけでなく創作、課外活動など幅広い支援、活動を取り入れている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	・お菓子を自分のお金で買う、好きな運動に参加する等自己選択の場を設けている。 ・日々のやり取りの中でも職員が決めるのではなく自分で決められるよう選択肢を与えるなど工夫している。	

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	・児童発達管理責任者や管理者が、職員の意見をまとめたうえで参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	・必要な時に情報交換の場が設けられている。	情報交換の機会をさらに増やしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	・電話や送迎時でのやりとりで情報交換を行っている。	より密な情報交換の場を設けることができるよう努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		情報交換の機会の拡充に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	・卒業後に障害福祉サービス事業所などへ移行した利用者がいたことがない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	・必要に応じて相談をし助言を受けている。	研修受講の機会を設けるよう努める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		放課後児童クラブは児童数が多く関わりが難しい面があるが、地域の児童館を活用し、他の子どもと関われる機会を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	・子ども部会に積極的に参加しており、意見交換を行っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・送迎時にお話をしている。 ・必要があるときには電話等で詳しくお伝え・お伺いしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加ができる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	・地域で行われている講演会のチラシを玄関に掲示し、また手に取れるようにしている。	自事業所ではペアレント・トレーニング等は実施していないが、今後の取り組みとして検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	・見学時・契約時にお時間をいただき説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・年度初めにアセスメントシートの更新を行い、ご意向の確認を行っている。 ・モニタリング時にヒアリングを行っている。	三者面談のようにおこさまを交えて意見を聞く機会を、今後設けられるよう検討していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	・送迎時に計画を示し、できるだけ分かりやすくご説明している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・相談があれば管理者から話を聞く場を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	・参観日の中で保護者会として保護者同士での意見交換のできる時間も設けている。	保護者が参加しやすいよう、日程調整を意識していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	・管理者が苦情窓口となり、報告があればすぐに管理者へ連絡し対応ができるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	・「夢だより」「夢ブログ」で活動の様子をお伝えし、「夢通信」で行事予定の連絡を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	・特に子どもの写真を広報誌やネット上に載せる場合は許可の出していない子を載せない、顔を隠す等のチェックを怠らないようにしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	・手話やジェスチャーカード、絵カード等の視覚支援を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6		ご挨拶には伺っているが、地域交流につながる催しは実施できていないため、今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	・避難訓練を年2回行っており、その他の訓練も研修時等で定期的に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	・火災、地震・津波を想定した避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	・契約時に話を伺い、職員間で共有している。	発作発生時に迅速に対応できるよう、フローチャートの掲示を行いたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	・書面にて教えていただき、表にまとめ、おやつや調理実習時に気を付けて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	・会社全体での研修や、事業所での訓練を行っている。 ・遊びに行く公園等の危険な箇所について共通認識をもち事故等がないよう気をつけている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	・契約時に説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	・危ないことがあればヒヤリハットにあげて職員間で共有できるようにしている。	情報共有が十分にできていない場合があるため、報告されたヒヤリハットに全員が目を通せるようにしていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・毎年身体拘束・虐待防止についての研修に参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	・契約時に身体拘束のやむを得ないケースについて説明をしている。	

保護者様評価、自己評価についてまとめ

・保護者様より支援・活動について概ねご満足いただいた評価をいただき、ありがとうございます。これを励みに子どもたちの成長の助けとなる支援が毎日行えるよう頑張っております。
 ・運動の際の制服の着脱についてご意見をいただきました。専門的な知見をもった声掛けができていなかったことを反省し、職員全員で同じことが起きないように気を付けてまいります。
 ・この度参観日・保護者会の機会が得られなかったというご意見をいただいておりますが、去年度にも同じご意見をいただいたことを受けて、今年度は2回目の参観日の機会を3月に設けております。まだ参加をされたことがない保護者様にもぜひご参加いただければと思います。
 ・地域との交流の機会を増やすことが去年度に続き課題となっております。去年の3月には寄島の漁港に出かけカキの養殖の様子を漁港の方たちと触れ合うことができました。またこの3月にも笠岡の児童館へ赴き地域の子どもと交流する機会となればと考えております。このように子どもたちが地元を知り人と触れ合い地元を好きになれるような機会を増やしていこうと思っております。